

2016年8月2日 Vol.38

リスクオフからリスクテイク局面へ

昨日から8月入りした株式相場は依然として強弱感が対立したまま、下に行くのか上に行くのか読み取れない中で、この暑さにも関わらず投資マインドはまだ、冷えた状態のようです。暑さの中、繰り広げられた東京都知事選は大方の予想通り小池百合子氏の勝利で終わりました。そのさなかに打ち出された28兆円もの大型予算を伴う経済対策は、織り込み済みのムード。むしろ日銀の政策決定会合で打ち出された政策が6兆円のETF 買付けだけに留まったことや米国の金利引き上げ見送りが、再び円高に向かわせ、市場心理を冷やしてしまいそうなムードとなっています。このため株式相場も日経平均はややもたつく展開ですが、16000円台の大台は維持しており、徐々に下値を固めようとしているように感じられます。こうした状況下でやや調整気味だったマザーズ指数は上向きつつあり、再び注目されつつあります。3 月期決算銘柄の第 1 四半期決算発表がたけなわとなるこの時期、大方の企業が円高による影響等で減益を余儀なくされる中で比較的堅調な業績を維持している企業や円高メリットを受けやすい国内産業の業績動向が気になる昨今です。任天堂フィーバーが一巡し膠着状態が続く株式相場の突破口が何になるかはともかく、そろそろリスクオフからリスクテイク局面に向かうと期待する投資家の皆さんも多い筈です。

既に出されている自民党政務調査会の経済対策をじっくり読むと様々なテーマが表現されており、ロングランで注目されやすいテーマに関わる企業に対する長期スタンスの投資が底流には着々と進展しつつあるものと考えられます。賢明な多くの投資家は既に布石を打っておられるものと思いますが、躍動感ある相場展開につながる契機となる何らかの施策待ちという段階で、8 月 3 日に発足する新内閣の組閣後には更に市場に何らかのメッセージが発せられるものと期待されます。このままずっと穏健なまま相場が推移することは考えにくいと、日経平均の18000円挑戦とマザーズ指数の高値更新などの動きに向けた仕込み期との認識を持って 8 月相場に臨むことにしたいと思います。リスクオフした国内外の投資家のキャッシュポジションが高まっていて改めてリスクテイクに動くのか、先行きは依然として不透明なままですので、投資家同士の睨み合いがしばらく続くとしても、未来永劫この状況が続くとは思えません。上場企業の成長意欲と成長に向けた事業展開に期待して投資家もこの際、リスクを思い切って取ってみてはいかがでしょうか。

さて、2016 年の IPO 市場には 7 月までに 45 社が上場。9 月 2 日のベイカレントコンサルティング (6532) まで入れると 47 社の上場が予定されています。ただ、個人投資家の積極的なリスクテイクが求められる IPO 市場は目下、開店休業状態。東証 1 部市場の主力銘柄に資金が向かう間は、人気薄の状況が続きます。実際にリスクテイクする投資家が減ったのか、6 月以降は上場初値から大きく調整する銘柄や初値そのものが公開価格を下回るかほとんど変わらないといった体たらくを見せています。7 月にな

東京 IPO 特別コラム

って IPO した銘柄はセラク (6199)、LINE (3938)、デュアルトップ (3469)、インソース (6200)、リファインバース (6531) の 5 銘柄でありましたが、押しなべてパフォーマンスは悪い。時価総額の大きな LINE 株の上場後の低迷で回転が効かなくなっているのが影響していると考えられます。ほとんどが初値で買ってもなかなか儲からない展開が見られますが、8 月は月末のデファクトスタンダード (3545) 1 社なので、需給は改善に向かうと期待されます。また、9 月 2 日には優秀な人材を多数抱える総合コンサルティングファームのベイカレント・コンサルティング (6532) がマザーズに上場予定で、話題を呼びそう。まあ、ここはじっくりと内容の良い成長銘柄に焦点を当てて対応すべきところだと思われます。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)